

令和4年度 大阪府立桜塚高等学校 第3回 学校運営協議会

日時 令和5年1月27日（金）15時00分より

場所 会議室

校長

委員 武庫川女子大学副学長、豊中市立第三中学校校長、  
大阪府立桜塚高等学校 PTA 会長、豊中市地域教育協議会会長、  
尚和会会長、桜援会会長、

事務局 教頭、事務部長、首席、指導教諭、教務主任、生徒指導主事、自治会部長  
進路指導主事、保健部長、各学年主任、書記

内容

1 会長、校長 挨拶

会長：少子化に伴い、一人ひとりに対応したきめ細かな教育が求められる。

校長：新学習指導要領・観点別評価への対応等の様々な教育活動について、アドバイスをお願いしたい。

2 報告

令和4年度学校評価について

資料1 R4学校評価

授業に対する肯定的評価が高くなった点が代表的な成果。

資料2 令和4年度授業アンケート結果（経年比較）

「⑤授業に対する評価—教材活用」については3年前と比較し、飛躍的に伸びている。国が推進する ICT 活用教育の流れとも一致している。

資料3-1 令和4年度学校教育自己診断（生徒）

「②授業はわかりやすい」…大幅に2年前より伸びている。

「⑤授業で考えをまとめたり、発表する機会がある」…8割を超えている。

などに見られるよう、生徒の評価は2項目を除き伸びている。

伸びていない項目は「⑩部活動に積極的に取り組んでいる」「⑨学校の老朽化もあり厳しい」といった点であり、これらはそれぞれコロナの影響と、大阪府で対応すべき問題である。

（質疑）

Q 学校の施設の問題は教育委員会への要望はいつになれば通るのか？

（いつまで老朽化で放置されるのか）

避難施設でもあるため、設備に関しては粘り強く交渉してほしい。

A 校長会等も通じ、教育委員会へ伝えているがなかなか要望が通らない。

トイレ便器の洋式化や手洗いの自動化等の工事など少しずつ進んでいる。

エアコンに関しては学校で設置するとしても、学校の電気容量の問題があり困難を極めている。

体育館は来年度冷房がつく見通しが立っている。

Q 遅刻者の減について対策は？

A 前年度は減っていたがコロナの影響もあり、傾向はつかめず。

今年度は増加してしまっているがコロナを経て理由も多様化している。生徒は落ち着いてきているため、このまま減少していくことが望ましいが、心の問題も増えてきているので一概には数で判断は出来ない。生徒一人ひとりに合う指導をしていくことが必要。  
また、コロナの後遺症で登校できない生徒や、会話による感染が心配で登校できない生徒もいる。

- Q 学校教育自己診断結果（生徒）より「⑩担任以外に相談できる先生がいる」などは微増である一方、「⑦授業で教員に質問しやすい」などは良く伸びている。  
以上の結果からの分析で教員は細かいところまで入りこめているのか。このあたりに差が出る理由は何か。  
生徒が先生に対して無礼な態度をとってくる（教員が手を出せないことをいいことに）事例が他県で起こったが、同じ状況になった際の対応は出来ているのか。教員が大変な時代ではあるが毅然とした態度で頑張してほしい。
- A 教科担当の場合は教員が決まっているので生徒も関わりやすい。しかし、その他の相談は担任しか窓口がないのは現状。本校の大きな課題であると認識している。来年度以降は、副担任や担任団で生徒のフォローをできる仕組みを考える必要があると認識している。これまでこの体制でもやっていけたが、生徒の多様化もあり対応が難しいケースも見られるようになった。  
問題行動についても1対1の関係ではなく、チームで当たれるよう考えていく。

### 3 協議

令和5年度学校経営計画について

資料4 中期的目標の決定について

令和4年度とおおむね変わってはいない。

(変更点)

#### 1、確かな学力の育成と授業改善

\*学校教育自己診断（生徒）の質問項目「授業はわかりやすい」の達成目標が75%であったが、これは達成したため85%に変更

#### 2、人間力をつけること、規律、安全安心について

「地域連携・国際交流」については、他の部分と重複するため削除

#### GSコースの改定

前年度まではGSS、GSCといった多文化理解や課題研究等にも力を加え、文系理系両面から選択できるコース制であったが、理系を選択する生徒が少なく、また出口の大多数を占める大学進学のために答えられるように、文系の国公立大学や難関私学を目指すGSコースに一本化している。

### 4 本年度の取り組みについて

資料5 授業改善の取り組みについて

- ・授業力向上検討委員会を中心に授業において活用可能アプリケーションの検討を続けた。教員アンケートの結果、生徒ICT端末を活用した授業が大幅に増加している。また、今年度1年生から実施している観点別評価については教科ごとに1年間行ったことを共有する研修会を実施し、教員のスキル向上に努めている。
- ・教科横断型授業の実践を10年目研修の一環として実施した（日本史×化学）
- ・保護者対象授業公開を5月に実施（コロナで昨年度は実施できず）コロナ前よりも大勢参加
- ・府立学校全体に向けた授業公開も多数の教員が参加

(質疑)

Q (資料より) 教科横断型について、世界史と音楽はどのように

A 音楽授業で扱う「レ・ミゼラブル」の配役についての講義、役作りを、世界史授業で歴史的背景に照らし合わせて心情等を考えさせた。

Q ICT 機器のトラブルはあるか

A 以前は独自で購入していた端末であったが、大阪府の端末が配布され、トラブルはあるが対応もマニュアル化されておりやりやすくなっている。使用法については、細かく指示しなくても、よくわかっている生徒が多く、大きな問題はない。

資料6 地域連携の取り組みについて

- ・コロナ渦のため出来ていないことも多いものの、部活動、授業、自治会など様々な分野で可能な交流を行っている。
  - ・近年豊中市役所との連携が増加傾向にある。軽音部が盆踊りの歌を作ったことから日本舞踊の方との交流にも繋がった。
- 「市民のつどい」のテーマソングも作成 (社会を明るくする運動)

<資料訂正>

イラスト部「こくりゅう」表紙担当は 2021 年 2022 年度もあり

資料7 桜塾 (ECC 英検対策講座) について

(令和4年度振り返り)

- ・ECC と連携し英検対策の講座に変更。約 200 名、9 講座に増加した。
- ・費用も例年より安価に。80 分×20 回は変わらず。しかし、20 回という回数が増え負担に

(令和5年度 案)

次年度は 3 ターン制にする。120 分×5 回の短期集中講座で行う。1 次対策 4 回、2 次対策 1 回。オンラインプログラムも取り入れて、自宅でも補充の学習ができるようになっている。

資料8 学校行事 (体育祭・文化祭) について

・部活動について

昨年等は新入生の対応がコロナのために遅れ、加入数が思ったほど伸びなかった。

(仮入部期間等がずれる等の影響)

今年度から通常の形態に戻すことは出来たが、活動の制限等まだまだ難しい部分もある。

・体育祭について

今年度から全学年でのパフォーマンスの実施が可能になった。

・文化祭の「飲食店なし」は継続。景品のお菓子などは個包装のものに限り認める方向に緩和。

・体育祭も文化祭も来場者のルールを多少緩和することができた。

・執行部について

ICT 端末を使うことで作業の効率化も図っている。(役員選挙も)

今年度から自治会部が生徒指導部に合流したため、活動も広がった。(朝の挨拶運動について、風紀委員だけに任せていたが、自治会生徒も参加している。)

(質疑)

Q 部活動顧問を民間に移行するという情報もあるが、実際はどうか

A すでに外部指導員に依頼している部活動もある。(サッカー、軟式テニス、硬式テニス、茶道部、箏曲部) 専門的な文化部は教員では指導できないことも多く、外部指導員のほうが良いこともある。

資料9-1 75期生進路状況について

学校推薦型選抜(ここまでのAO、公募制)の結果。年内の入試の数が増えてきた。

生徒も親も年内に進路先を決めてしまいたい傾向が伺える。

資料9-2 共通テスト結果(中間集計)

公募制入試で合格していることがプラスに働かない場合もあり、課題といえる。(安心感から勉強量が下がる生徒も見られる。)

5 その他

特になし